

内閣府結婚応援フォーラム

未婚化の背後にあるもの

2016年4月19日(火)

山田昌弘 (中央大学・教授)

(NPO全国地域結婚支援センター 理事)

1. 日本の未婚化の実態

日本の結婚、恋愛の現在

①結婚する人、している人の減少

未婚者率 30代前半—男性47.3%, 女性34.5%

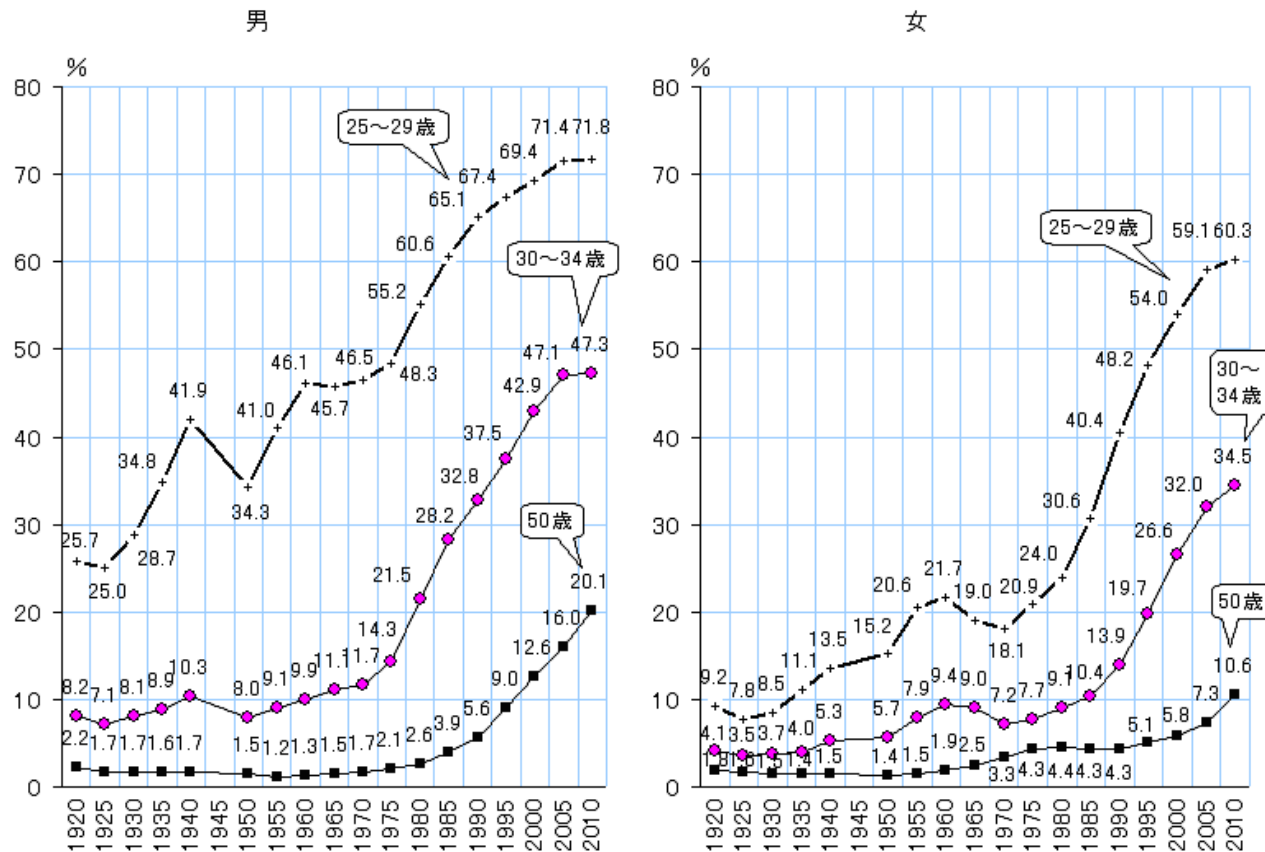
(2010年) 30代後半—男性35.6%, 女性23.1%

②独身者で交際している人がいる人の減少

恋人あり率 18—35歳 男性25%,女性35%(2010年)

1. 日本の未婚化の実態

年齢別未婚率の推移



(注) 配偶関係未詳を除く人口に占める構成比。50歳時の未婚率は「生涯未婚率」と呼ばれる(45~49歳と50~54歳未婚率の平均値)。

(資料) 国勢調査(2005年以前「日本の長期統計系列」掲載)

1. 日本の未婚化の実態

- 表 独身者で交際相手をもつ率の変化 18歳-35歳
- (国立社会保障・人口問題研究所 出生力調査より 数字%)

	1987	1992	1997	2002	2005	2010
男性						
■ 恋人あり(含む婚約者)	22.3	26.3	26.2	25.1	27.2	24.6
■ 交際中異性の友人有り	23.6	19.2	15.3	11.3	14.0	9.4
女性						
■ 恋人あり(含む婚約者)	30.8	35.5	35.4	37.0	36.7	34.0
■ 交際中の異性の友人有り	25.4	19.5	15.9	12.4	12.9	11.9

1. 日本の未婚化の実態

■結婚の二つの意味

① 経済的側面

経済的に新たな生活をスタートさせる

② 心理的側面

好きな人と一緒に暮らす

①の実現が困難になり、②の面も弱くなっている。

1. 日本の未婚化の実態

■結婚の経済的側面

* 結婚は、生活状況を変えるイベント

①今の生活(独身)よりも、よい生活をしたい

→ 生活レベルが落ちる結婚はしたくない

②自分以上の環境で、子どもを育てたい

→ 子どもにつらい思いをさせたくない

1. 日本の少子化の根本原因

■ 結婚難の構図

* ー1980代まで

結婚すれば、「今以上」、「親以上」の生活が期待できた

* 1990年以降

結婚しても、「今以上」、「親以上」の生活が送れないかも、という不安が強まっている

2. 現代日本の未婚化の背景

《1980年頃まで結婚が容易にできた理由》

- ① 経済的な心配はなかった
 - ② 出会いが容易だった
 - ③ 恋愛へのあこがれがあった
- ✓ 恋愛にあこがれて、好きな人と出会って、「男が主に仕事、で豊かな生活」可能な経済条件があった

2. 現代日本の未婚化の背景

《1980年代まで結婚が容易にできた理由》

- ✓ 若者男性 正社員か自営業者の跡継ぎ
- ✓ 正社員は終身雇用、年功序列賃金
- ✓ 自営業は、政府によって保護
- * 若年男性の稼ぐ収入 安定して増える見通し→
結婚に当たっての経済的心配は不要

男性の経済格差 ほとんどない 平等社会

「男が主に仕事で豊かな生活」可能 女性は相手が誰でも経済的な側面では安心して専業主婦になれた

2. 現代日本の未婚化の背景

《1980年代まで結婚が容易にできた理由》

✓ 男女交際 自然な出会いと見合い

(自ら活動しなくても結婚相手候補に出会えた)

恋愛結婚の半数 — 職場結婚

(男女とも正社員、身近に未婚異性が多い、社内サークル)

ゆっくり相手と親しくなる時間的余裕があった

見合い 男性の経済格差あまりない—妥協できる

2. 現代日本の未婚化の背景

《1980年代まで結婚が容易にできた理由》

✓ 恋愛へのあこがれ

欧米や日本のテレビ・ドラマで、楽しい恋愛が描かれ、自分もそのような恋愛結婚ができるのではとの期待

親は、「見合い結婚」だから、仲良くない夫婦と思えた。だけど、自分が恋愛結婚したら、ラブラブの夫婦になれると信じることができた。

「あこがれ」だから、見合いでも諦められた

2. 現代日本の未婚化の背景

《近年の未婚化の理由》

① 経済的な不安

② 出会いの減少

③ 恋愛へのあこがれ消失

✓ 恋愛へのあこがれが低下し、未婚の異性が周りにいないし、「男が主に仕事で豊かな生活」を送る見通しが無い

2. 現代日本の未婚化の背景

《近年の未婚化の理由① 経済不安》

A 若者(特に男性)の経済力低下

若年男性 経済格差が拡大

B 男性が経済的に扶養するものという意識

(専業)主婦志向が強い

C 親と同居していつまでも待てる

パラサイト・シングル

2. 現代日本の未婚化の背景

① 経済不安 A 若年男性の経済力低下

《近年の未婚化の理由 ①経済不安》

✓ A 若者(特に男性)の経済力低下

若年男性 経済格差が拡大

1990年代半ば グローバル化

正社員として就職できない若者の増大

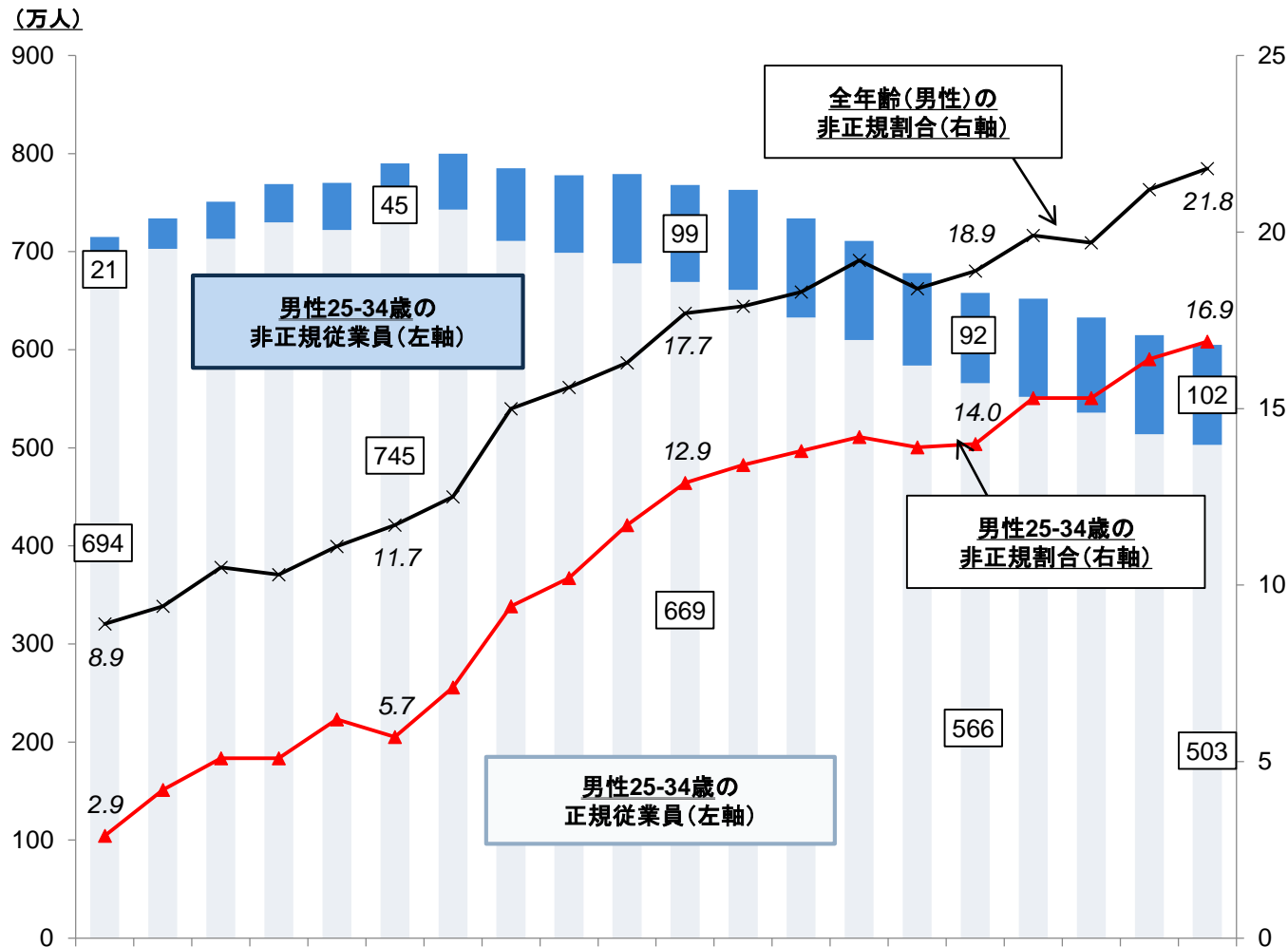
未婚男性の4割は(低収入の)非正規雇用か無職

妻子を養える収入を得られない男性増大

2. 現代日本の未婚化の背景

① 経済不安 A 若年男性の経済力低下

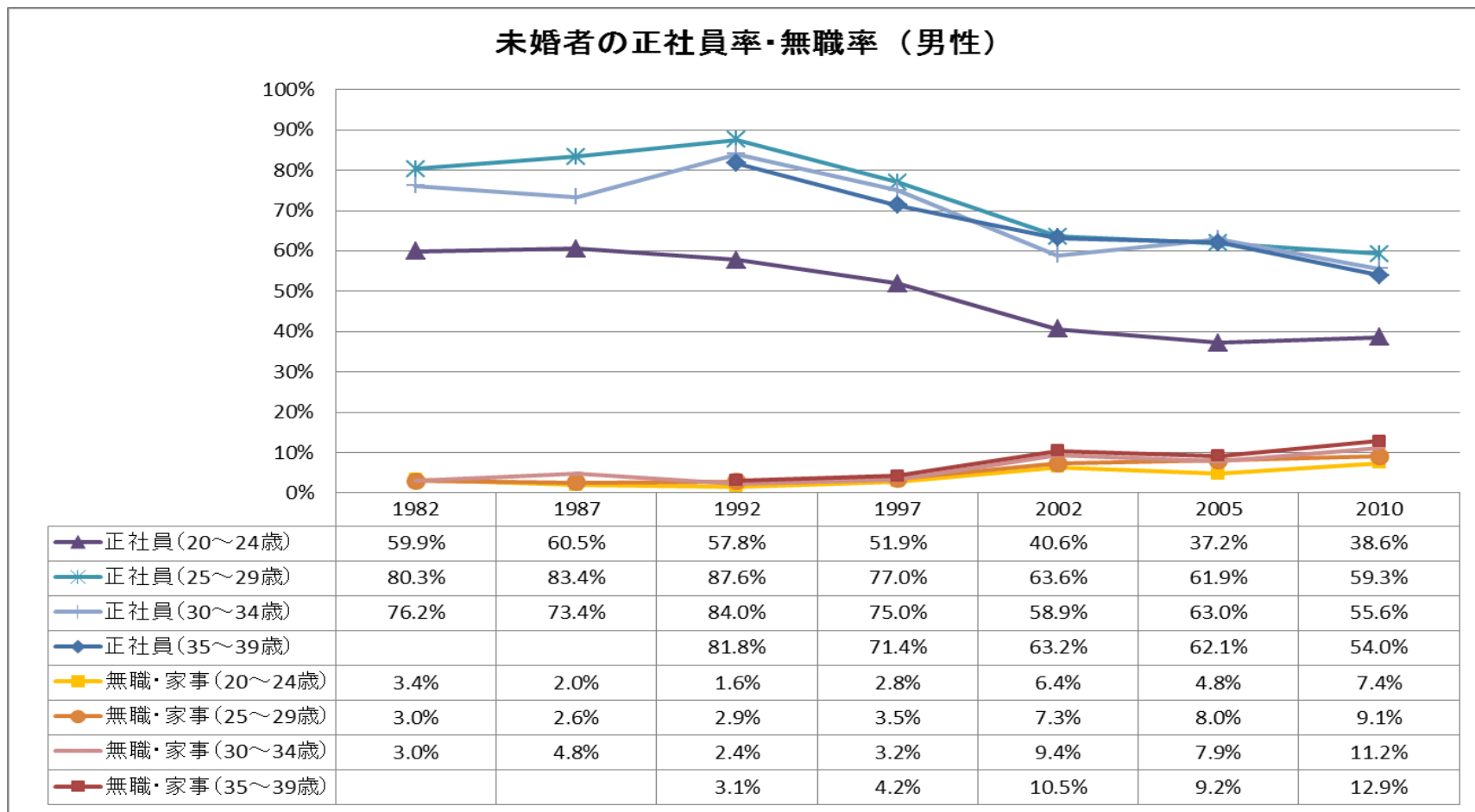
「雇用者」のうち正規・非正規雇用者数の推移
【男性25-34歳】1995年－2014年



2. 現代日本の未婚化の背景

① 経済不安 A 若年男性の経済力低下

男女とも未婚の非正規雇用者が増大(男性)



出典: 出生動向調査(国立社会保障・人口問題研究所)

2. 現代日本の未婚化の背景

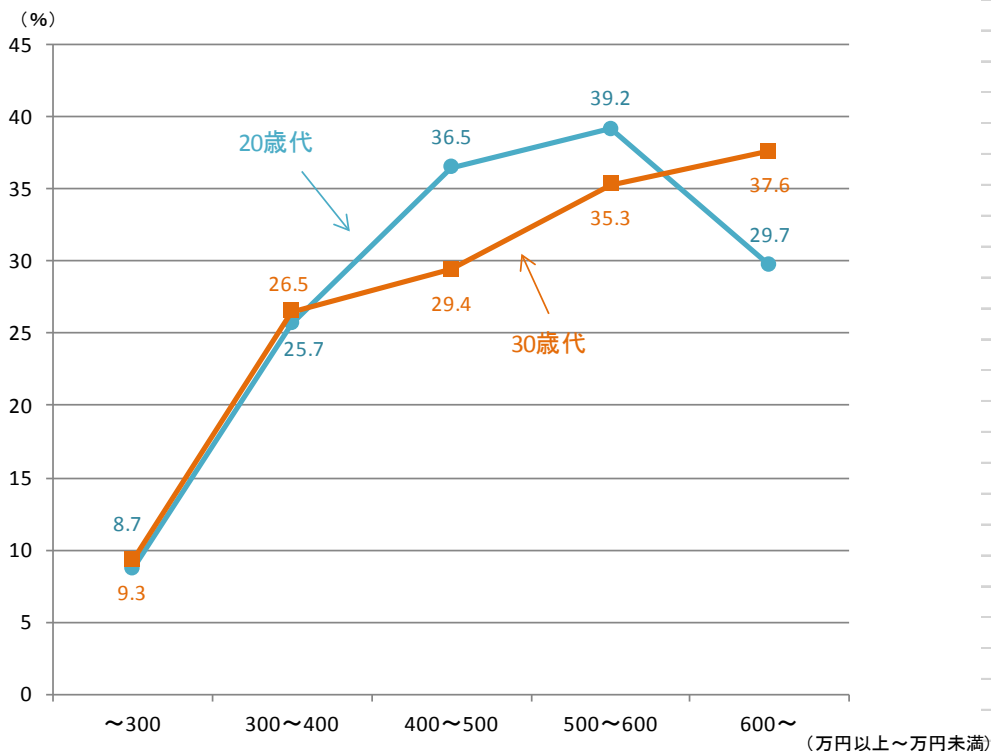
① 経済不安 B 男性が経済的に扶養 意識の残存

年収と結婚の関係

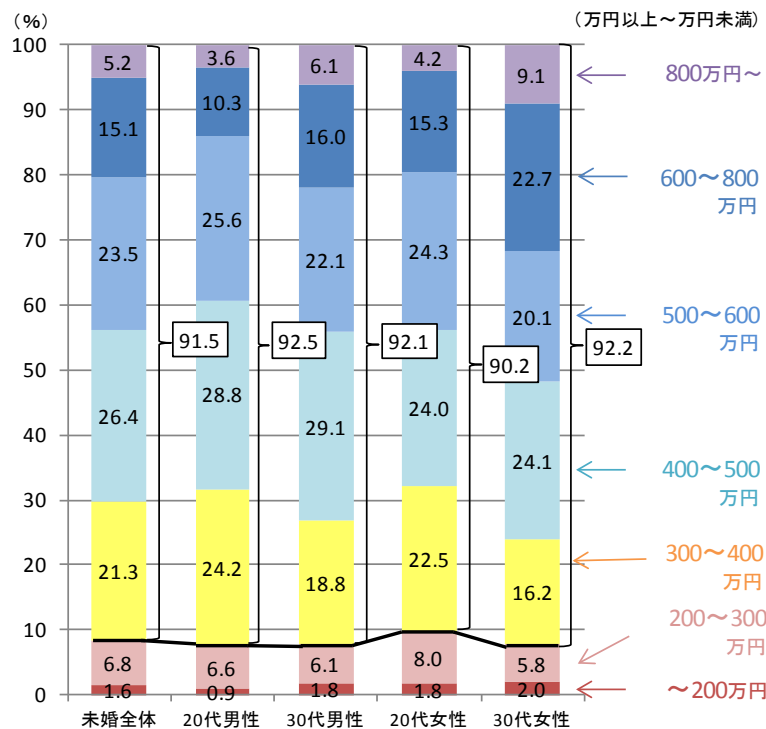
資料1-5

- 20~30歳代の男性について年収別の婚姻状況を見ると、年収が300万円未満の場合、20歳代・30歳代ともに既婚率が10%を下回り、年収300万円以上の既婚割合(25~40%弱)と比較して、大きな開きがある。
- 結婚生活をスタートさせるに当たり必要だと思う年収については、20~30歳代の9割以上が「年収300万円以上」と回答している。

年収別に見た20~30歳代男性の既婚率



結婚生活に必要なと思う夫婦の年収



(出所)内閣府「結婚・家族形成に関する調査報告書」(平成22年度)

(注1)20~30歳代の「未婚者」と同年代の「結婚3年以内の既婚者」のみを調査対象としているため、20~30歳代の「合計」は、20~30歳代の全体とは異なることに留意が必要。

(注2)性別・年代・未既婚については、総務省「国勢調査報告」(平成17年)をもとにウエイトバック集計。

(出所)内閣府「結婚・家族形成に関する意識調査報告書」(平成26年度)

(注)「収入は関係ない」「わからない」「無回答」を除いた割合。

2. 現代日本の未婚化の背景

① 経済不安 B 男性が経済的に扶養 意識の残存

《近年の未婚化の理由 ①経済不安》

✓ B 男性が経済的に扶養するものという意識

専業主婦志向(せめて子どもが小さい内)が強い

「結婚後、男性の収入で暮らすのが当然」 8割

「男が仕事、女は家事」賛成率 世界的にみて高い

若年女性の専業主婦志向 近年強まっている

(正社員長時間労働、非正規雇用率 高い)

2. 現代日本の未婚化の背景

① 経済不安 B 男性が経済的に扶養 意識の残存

- 内閣府の男女共同参画に関する世論調査より
- 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、賛成の人の割合(%)

				女性					
	全体	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代	70以上
■ 2002年	47.0	51.3	43.3	33.2	32.9	37.5	40.6	50.8	63.8
■ 2007年	44.8	50.7	39.9	40.2	35.0	31.7	34.3	43.1	54.8
■ 2012年	51.6	55.2	48.4	43.7	41.6	41.0	40.4	52.3	62.2

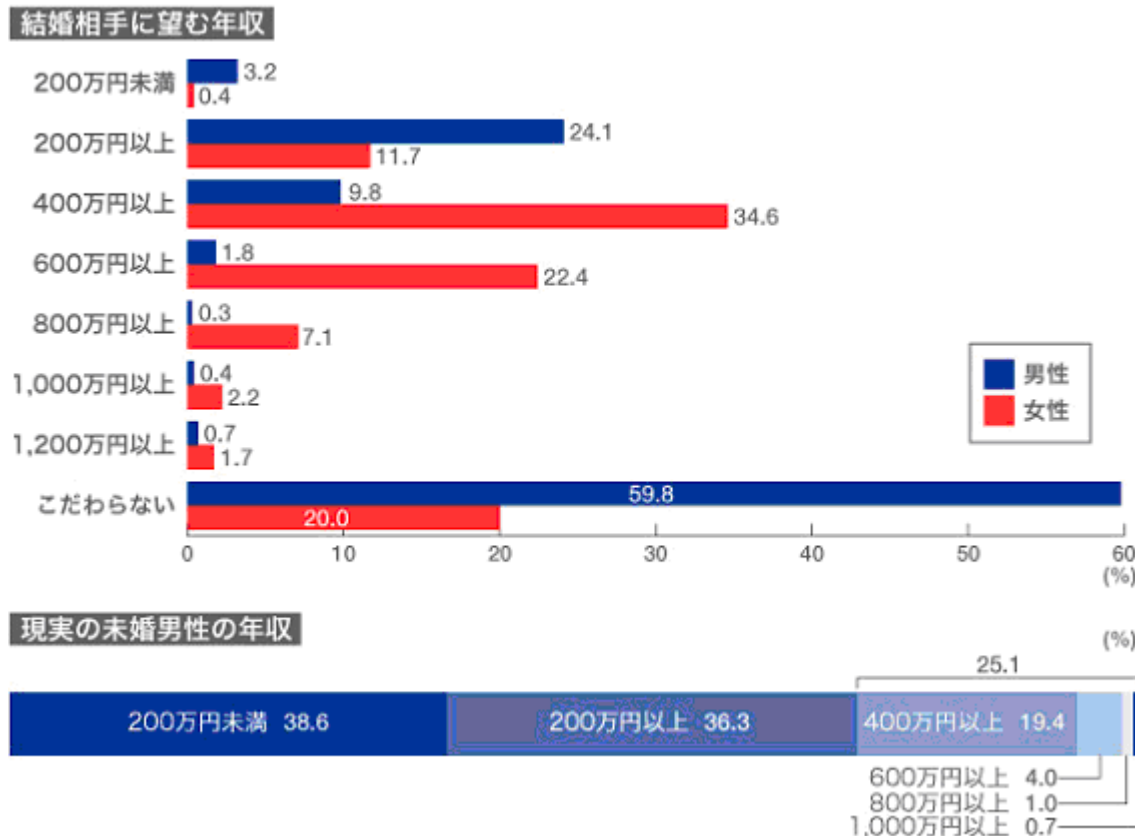
2. 現代日本の未婚化の背景

① 経済不安 B 男性が経済的に扶養 意識の残存

図表 未婚女性の期待と現実の男性の収入のギャップ

(明治安田生命より)

結婚相手に望む年収と現実の未婚男性の年収の比較



出所：明治安田生活福祉研究所・「生活福祉研究」号。データは2009年の「結婚に関する調査」（全国ネット20～39歳、4120名の未婚者が回答）

2. 現代日本の未婚化の背景

① 経済不安 C パラサイトシングル現象

《近年の未婚化の理由①経済不安》

✓ C 親と同居していつまでも待てる

パラサイト・シングル(寄生単身者)の増大

日本 大部分の未婚者(特に低収入者)親と同居

✓ 女性・・・収入が高い男性が現れるのを待つ

(自分の収入が低くても、親同居なら生活できる)

✓ 男性・・・自分の収入でもOKといってくれる女性を待つ

自分の収入が高くなるまで待つ

2. 現代日本の未婚化の背景

《近年の未婚化の理由② 出会いの減少》

現実にならぬ出会いが減少

正社員の長時間労働(若年正社員労働時間増大)

非正規化(入れ替わり激しく、正社員との交流なし)

長期間、ゆとりをもって親しくなる機会の減少

(未婚正社員数減少、全員加入の若者組織崩壊 一
社内サークル、青年団、労働組合青年部)

* シャイな若者 出会う機会がない

2. 現代日本の未婚化の背景

(内閣府・結婚・家族形成に関する意識調査 報告書 2015年)

* 交際不安(恋人がいない未婚者)

	男性	女性
そもそも出会いの場がない	52.4%	58.9%
自分には魅力がないのではと思う	32.8%	35.8%
自分が恋愛感情を抱くことができるか不安	16.6%	24.9%
どのように声をかけてよいか分からない	21.6%	18.2%
恋愛交際の進め方が分からない	20.3%	19.3%

* 恋愛意識

相手からアプローチがあれば考える	33.3%	47.8%
交際すると結婚を考える	34.2%	47.6%
恋愛は面倒だと感じる	26.8%	25.7%

2. 現代日本の未婚化の背景

《未婚化理由③ 恋愛へのあこがれ消失》

A 恋愛(結婚) 楽しいモデルがない

* 恋愛結婚してるはずの親 ラブラブではない

* 恋人がいる人へのやっかみ、

B 恋愛 コストになる

* 恋愛するのが面倒、(4割が恋人ほしくない)

* 恋愛はお金や時間の無駄

2. 現代日本の未婚化の背景

(内閣府・結婚・家族形成に関する意識調査 報告書 2015年)

* 独身者の交際実態(20-39歳の独身者)

恋人有り	恋人なし(経験有)	恋人経験なし
35.6%	40.8%	23.3%

(2010年調査 36.2% 37.9% 25.8%)

* 恋人がいない独身者の交際意欲(恋人が欲しいか)

男性 61.5% (20代 58.1%、30代 66.1%)

(年収400万以上 79.7% 400万未満 53.7%)

女性 60.1% (20代 57.6%、30代 64.8%)

(年収200万以上 70.7% 200万未満 52.1%)

(2010年調査 男性67.3% 女性70.3%)

3. 結婚支援の課題

《結婚支援の課題》

- ① 経済的な不安の高まり
- ② 出会いの減少
- ③ 恋愛へのあこがれ消失

これを全て反転させる必要

3. 結婚支援の課題

《結婚支援の課題》

- ① 結婚したら生活できないという経済的不安の払拭(特に収入が不安定な男性)
- ② 自然な出会い、積極的な出会いの機会を増やす(特にシャイな若者)
- ③ 恋愛に対する憧れを復活させる
(恋愛が面倒で、時間の無駄と思っている)

3. 結婚支援の課題

①ーA 結婚後の生活不安の払拭

* 共働き化 女性の活躍推進

子どもを育てながら、収入を得る職につける
環境を整える

* 社会保障による下支え

日本社会 — 子どもに惨めな思いをさせたくない

3. 結婚支援の課題

①ーB 結婚後の生活不安の払拭

* 家族のありかたの多様化

農家の嫁 → 牧場(農業)の共同経営者

→ 農夫が子どもの世話、妻が外で稼ぐ

稼げない夫 → 専業主夫家庭

非正規同士で不安 → 共通の趣味で楽しい家庭

単身赴任 → 別居結婚

プライド、言い訳を用意する必要

3. 結婚支援の課題

② 出会いを増やす(特にシャイな人)

* 恋愛経験や置かれた状況に応じた支援

→本当は、ワンストップ相談が必要

データに自身がある人 一対一の見合い

魅力に自信ある人 出会いパーティ

真面目、口下手な人 長期的な出会いの場支援

3. 結婚支援の課題

③ 恋愛(結婚生活)へのあこがれの復活

カップルや「夫婦」、楽しそうにする

楽しく交際している人を応援する

* いいなと思える異性を周りに増やす

未婚の異性が集まり、デートできる場所を作る

* 釣書ではなく、相性による出会いを作る

ビッグデータ コンピューターによる偶然の出会い

参考

内閣府 『結婚・家族形成に関する調査報告書』 2010年

『結婚・家族形成に関する意識調査報告書』 2015年

山田昌弘・白河桃子 『婚活時代』(ディスカヴァー21) 2008年

『婚活症候群』(ディスカヴァー21) 2013年

山田昌弘(編) 『婚活現象の社会学』(東洋経済新報社) 2010年

山田昌弘 『少子社会日本』(岩波書店) 2007年

山田昌弘 『家族難民』(朝日新聞出版) 2014年

ご清聴ありがとうございました

